

# Flute Foundation

## 古川仁美

◎フルート奏者

Interview

### 奏法の「土台」が西欧人と日本人とではこれほど違う！

「音楽も語学と同様に、自分が出せない音色・発音は聴き分けられていません」と語る古川さんは、W.ベネットのレッスンやイギリスでの演奏体験から「日本語を母国語としている人」のために新しいアプローチによるセミナーを開いている。

取材・構成：秋山君彦（フルート奏者） 撮影：岡崎正人 協力：管楽器専門店ダク

#### Profile

1984年に東京藝術大学を卒業後、フリーランスで活躍。2002年に渡英し、英国王立音楽院でウィリアム・ベネット、パトリシア・モリス、クリフォード・ベンソンの各氏に師事。声楽をジェニー・ミラー女史に師事。2004年同院をFirst Class Distinctionで卒業。コリン・デイビス、チャールズ・マッケラス、Y.P.トルトリエ各氏の指揮によるオーケストラで首席奏者をつとめた。イギリス室内合奏団、ロンドン・シンフォニエッタ、アイスランド交響楽団で演奏。2004年セント・マーティン・イン・ザ・フィールドでロンドン・オクターブとブランデンブルク協奏曲を共演。英国、米国、日本のフルートコンベンションに招かれソロリサイタルなどを行う。ベネット氏とデュオコンサートを開催。マスタークラスの助手を務めた。2006年ステイ・オブ・ロンドン・フェスティバルでソロリサイタルを開催。2003年 Nicholas Blake Wind Ensemble Prize 特別奨励賞、Chris Taylor Flute Award、Bache Award などを受賞している。

——古川さんが留学されたのは、比較的遅い時期でいらっしゃいますね。

古川 はい、やはり40歳の時です。私ももともとウィリアム・ベネットが好きだったんですが、幸いにも神戸国際フルートコンクールを受けた時（1989年、第2回）に審査員だった彼に気に入られ、覚えてもらうことができました。その後、10年以上経って、日本でベネットと共演するチャンスが訪れます。金沢のフルートアンサンブルがベネットとジョイントすることになり、私は恩師の日向恵子先生のご縁で呼んで頂いてクラウのトリオを演奏しました。

——ベネットのレッスンは受けたのですか？

古川 同時に東京で開催されたマスタークラスに参加しました。そこでベネット門下の浅利守宏さんから、ロンドンのサマースクールに行けば、世界中から生徒が集まってくるのでさらに刺激がある、とアドバイスを受けてました。それで矢も



●「海外でしばらく生活すると、突然、言葉が聞き取れる瞬間がくると同じく、音楽にも「耳が開いた」と感じる瞬間があります」という古川さん

盾もたまらなくなつて飛んで行ってみたいから、正にその通り。このままベネットに習い続けたいと思いましたが、教えるのは学校だけでプライベートの弟子はとらないという。これは世界中で行われている彼のセミナーを追っかけて行くしかないと思っていたら、サマースクールに来ていた40過ぎのアメリカ人男性が、王立音楽院の補欠枠が空いたので急に受験することになったと、にわかに騒ぎ始めたんです。

——入学試験に年齢制限はないのですか？

古川 あります。たしか35〜36歳。でも向こうでは、本人にやる気があつて、しかもしつこく言い続けると、意見が通ることが多々あります。自分より年上のアメリカ人を見て「だったら私も！」というところで受験し、無事、合格しました。

——音楽院では、デニス・ブリアコフと同級生ですね。

古川 入学してすぐに、彼から、シェーンベルクの《月に憑かれたピエロ》を「代わりにやってくれない？ 簡単だから」と頼まれました（笑）。当時のデニスほ



なっているいろいろ考えるきっかけになりました。

#### 私だけタイミングが違う！

——というの？

古川 タイミングですね。微妙にズレてしまい、根本的に何が違う。要するに、

つばらソロに入れ込んでいて、オーケストラやアンサンブルは面倒くさがっていませんたね。でも、おいしいオフアワーはほとんど彼のところに来ます。私はずいぶんなすり付けられましたが、おかげで貴重な経験がたくさんできました。

じつは、このシェーンベルクのリハーサルの時に、隣のクラリネットの学生とすくく合わせにくいと感じ、これが後に

彼女の身体の動きと音のタイミングが、今までの感覚では読み切れなかったんです。私はそれほど自覚症状はありませんでしたが、おそらく日本人特有の身体作法に慣れていたのでしょうね。

タイミングはその後も課題で、イギリス室内管弦楽団（ECO）にエキストラで行った時も、どんなに合わせようとしても私だけがわずかにズレる。聴いてわ

かるような違いではないのですが。後ろではクラリネット首席のアンソニー・パイクがこういうことに敏感で、仕舞いは「誰だ、こいつを呼んできたのは」みたいな雰囲気まで出している。仕方がないので聞き直して、本番は合わせようとせず、ここだと思おうタイミングでエイッと吹いたら、終わると今度は「次はいつ来る？」（笑）。

●管楽器専門店ダク3階のサロンで。